

## 第27回日本色彩学会賞

## 日本色彩学会賞を受賞して

## Acknowledgement of receiving the CSAJ Award

大野 治代  
Haruyo Ohno

名誉会員・工博/元 大手前大学メディア・芸術学部教授  
Dr. Eng., Prof. of OTEMAE UNIVERSITY



この度、本学会の名誉ある「日本色彩学会賞」をいただきまして、誠にありがとうございます。

会員の皆様、並びに選考の労をいただきました会長並びに役員・諸先生方に厚く御礼申し上げます。

学会賞には、色彩界に残る顕著な功績があると、授賞理由を下記の3要件に分けて示されまして、誠に光栄に存じます。

- 1) 多数の優れた研究業績により、建築分野の色彩学の発展に大きく寄与した功績
- 2) 条例制定や景観色彩の指導を通じて公共における色彩環境作りに貢献した功績
- 3) 理事並びに関西支部長などの要職を長年勤められ本学会の発展に寄与した功績

以下、私が色彩関連の研究を始めるに至った経緯と、色彩関連の研究実績を記します。

私の研究生活は、国立大学の建築系研究室に職を得てからです。そこでは、文字や標識等の見やすさについての研究がされていたので、被験者による評価した内容をまとめることから始まりました。

当時、女性研究者の数は僅少で、雑務処理等が多々あり、勤務時間内に仕事を終えることは不可能でした。しかしながら、将来には仕事を中断する可能性もあると考え、成果を意識した研究活動を続け、学会誌に数編発表し、研究室での居場所を確保できたと思えました。

次に、私たちが暮らす環境には全て色がついていることから、無彩色ばかりでなく有彩色も含めた色彩全般に関連する研究を実施することにしました。その頃、私の色彩に関する知識は教養程度で、研究に関する知識は皆無に等しい状況でしたので、色彩学に関する研究情報を把握することが急がれました。

そこで、色彩学会に入会し、多くの方々から色彩関連の事を学ばせていただきました。

最初に、研究対象として色彩に関連する見え方の問

題点を抽出する事にしました。まず、色彩関連の問題点を明らかにするため、居住環境の調査を始めました。屋内環境では、人々が安全に避難・誘導出来る標識を対象として、文字・矢印、避難口等に使われる色彩とその見え方について、屋外環境では、交通信号が人々にどのように見られているか、信号の設置状況と道路や周辺環境の状況を調査し、改善すべき点を検討しました。

次に、身近な選挙ポスターの色彩やデザインに関し調査しました。ポスターの大きさ、掲示場所・期間が全国共通であることから、日本全国を対象に色彩やデザインの調査をしました。最初の調査では地域別特性が明らかでしたが、再調査では、これらの差異は少なくなりました。

また、色彩環境が人に与える心理的影響について検討しました。21世紀を迎えた我が国は、高齢者の人口が増加し、健康に生活するためにスポーツ関連施設が多く設置されました。建物の内装色とそこで活動する人の満足度に問題があると考えて調査しました。その結果、体を鍛えるための内装色には活力みなぎる目立つ色彩が、健康を維持するためのそれには柔らかい内装色が、それぞれ望ましい事が明らかになりました。

さらに、阪神淡路大地震を身近に経験して、大きな災害を経験した人々の心理状況を調査しました。地震発生時から1年後までの心理的变化を、イメージする色彩を媒介にして調査しました。被災者がイメージする色彩、言葉、並びに建物被害との対応関係を示し、今後の防災や安全対策の資料として役立つことを考えました。

これら研究の多くは、パソコンが普及する前から実施していました。若い皆様には想像出来ないでしょうが、データの纏めには、勤務時間以外も含めて、とても時間を要しました。

このような研究に対し、学会賞をいただきまして、厚く御礼申し上げます。